

中山間地域等直接支払制度の集会に併せて人・農地プランの話し合いを実施し、農地の集積を実現(秋田県由利本荘市鳥海地域)

話し合いの工夫

法人化

基盤整備の活用

機構の活用

地域の概要

由利本荘市の南東に位置する鳥海山麓の条件不利農地を抱える山間地帯となっており、一部を除き農地集積が難しい地域。地域内農地面積1,989ha、地域内農家数1,249戸。

取組の成果

- 地域全体での担い手への集積率:[プラン作成時]48.2%(958ha)⇒[現在]52.4%(1,042ha)
- 地域内の平根地区において、基盤整備事業を契機に2つの集落営農組織を統合した農事組合法人を設立、新たに中心経営体に位置づけ農地を集積。複合化経営により、安定的な経営を実現(園芸作物:[法人化前]0.4ha→[法人化後]3ha)

秋田県由利本荘市



〈人・農地プラン基礎データ〉
作成予定地域数: 81
作成済地域数: 81
27年度見直し地域数: 81

取組のポイント

中山間地域直接支払制度の集落協定を基本としたプランを作成

平成25年に中山間地域等直接支払制度の集落協定を結んでいる集落を基本とし、当該協定を反映した人・農地プランを作成。高齢化や担い手不足から規模縮小を懸念する等、経営体個々が地域農業の将来について不安を持っていたが、話し合いを重ねることによって、担い手確保や機構の活用方針等、地域農業の展望を集落内で共有することができた。

農地の受け皿となる法人の設立

平根地区では、担い手への農地集積を図るため、基盤整備事業を導入し、平成26年に2つの集落営農組織を合併し、「農事組合法人 平根ファーム」を設立した。農地中間管理事業を活用することで、機構集積協力金が地域や出し手となる農家にとって負担軽減となったことから、法人への農地集積が加速した。

安定的な経営を図る取組

(農)平根ファームは、農地を集積すると同時に、県単事業「園芸メガ団地推進事業」を活用し、水稻のほかアスパラ、花卉の栽培等、複合経営にも取り組み、安定的な経営を実現している。



上:説明会の様子
下:平根ファーム
代掻きの様子